

ゼロカーボンと持続可能な地域と観光に関する宣言

北海道は、「ゼロカーボン北海道」を掲げ、道民の参画の下、再生可能エネルギーの積極的な導入、道民・事業者の行動変容などを通じて、環境と経済が好循環する持続可能な社会の実現を目指している。

こうした中、本日、阿寒摩周国立公園の豊かな自然やアイヌ民族との共生、地域に関わる全ての人の平和と調和を謳う「まりも家族憲章」を柱に、観光地づくりを進めてきた、ここ阿寒湖温泉において、「ゼロカーボンと持続可能な地域と観光シンポジウム」が開催され、活発な議論を経て、各分科会から次の提言がなされた。

我々シンポジウム参加者は、これらの提言を踏まえ、今後、「ゼロカーボン北海道」の実現を目指す中で、それぞれの立場から、持続可能な地域づくりと北海道観光の魅力向上に取り組み、地域の経済社会の活性化、さらには本道の発展に繋げていくために最大限努力していくことを宣言する。

一、 コロナ禍で傷ついた観光業の復活に向け、全国旅行支援や水際措置の緩和による観光需要の回復を着実に取り込みつつ、インバウンドの完全復活までの間、観光再生に向けた取組を粘り強く講じていくこと。また、コロナ禍によって加速された観光形態の変化に応じて、アドベンチャートラベルに代表される観光の高付加価値化を更に進め、文化体験の強化、質の高いガイドの育成など、多様なニーズに対応できる観光地づくりを進めていくこと。

一、 持続可能な地域づくりに向け、自然と調和するアイヌ民族の知恵も大切にしつつ、地域が有する資源や人材・技術を活かしながら、エネルギーの地産地消や水素・蓄電池の社会実装、循環型社会を目指した需要側も含めた社会変革を実現するために、地域の産・官・学・住民が連携し、主体的に考え、行動していくこと。また、来年札幌にて「G7気候・エネルギー・環境大臣会合」の開催が決定したことを歓迎し、「ゼロカーボン北海道」に向けた一層の機運醸成や理解促進に繋げていくこと。

一、 在住外国人は、地域経済だけでなく、インバウンド観光の魅力向上にとっても、今後ますます重要な担い手であることを踏まえ、在住外国人や外国人観光客と地域との共生を図る観点から、情報提供や相談体制の強化、医療、教育の充実等を通じて、外国人が安心して訪れ、働き、暮らすことができる環境を整えていくこと。その際、行政はもちろんのこと、地域のNPOや地域住民が果たす役割も大きいことから、その活動への更なる理解と支援、参画を促進していくこと。

令和4年10月29日